

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

+

金五冊曲亭主人編

大丈



特別
14
600
17



南總里見八犬傳第九輯

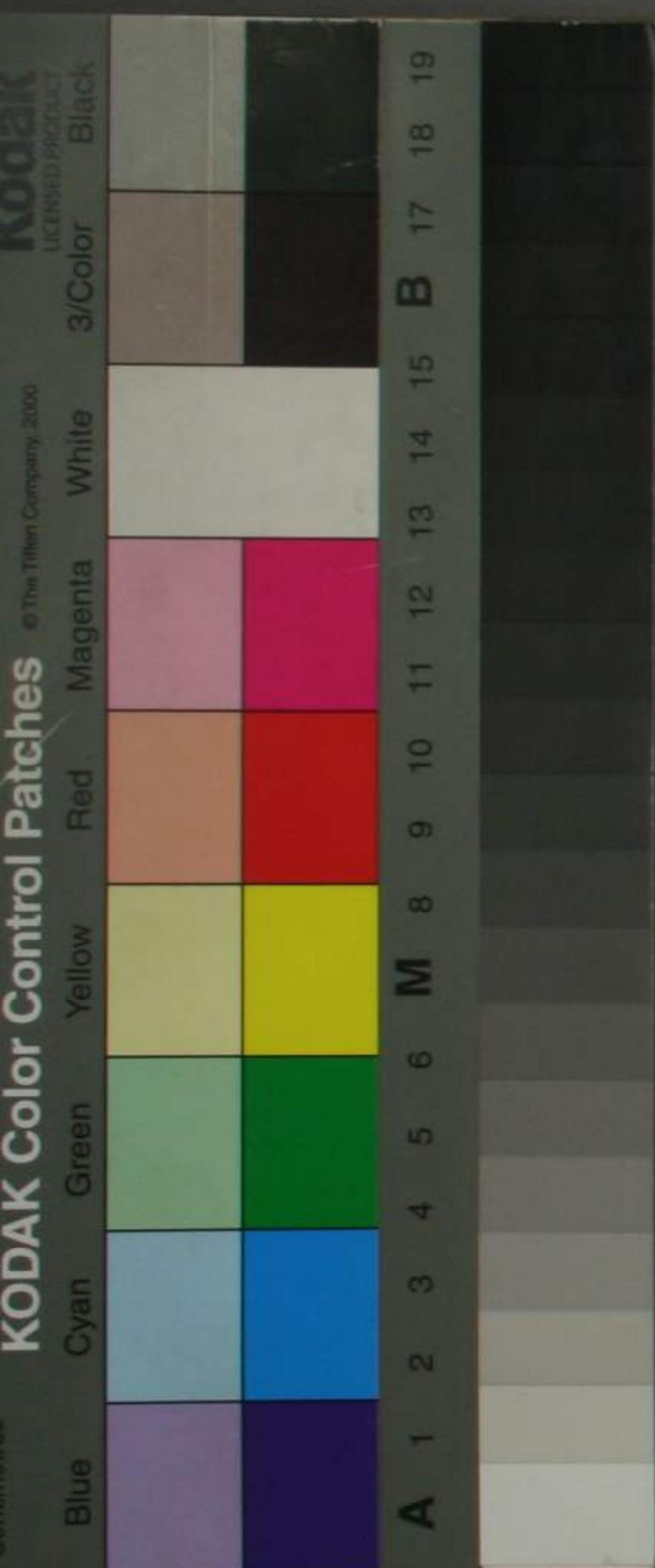
下缺下甲

二十八之卷二十九丁

表記存
于

巨工英泉

丁子至平兵衛板



南總里見八大傳第九輯卷之二十八

東都曲亭主人編次

第百四十四回 澄月の一謀

五虎を獲る

政元既に余市を誅して敢其身の慾と飾まつて先も室町殿義の御氣色のまま徳
官へもすせ思許せらればやう安らぐ胸を鎮めく兩三四回尋思を假する稱思得
てやれが猛可よ使者で遣へて京師の五虎とすまる秋篠得曹廣當澄月者車
介直道並馬海傳眞賢を敵齋經緯と家臣種子鳴や太正吉紀大鬼
兵士是年紀を立取候る秋篠廣當は那虎の防禦とうそ北面の兵士皆寒朝廷を
守護へまち暖乎とて招至応せど又澄月直道は昌長の大江親共侍と聞ゆる
をも竟ひも新帮助をうる鬼平直が未熟疎忽の碑されや落馬死す重病のま体と京き異

西子作。説文。筆とあわててその故に言中の沙汰に揮りて身の撲傷へ金をも。五、傷病病
假托て高屏居ておちーからむ亦政元の相手に應じむる餘す事。賢。經擇も正生むと
景紀。貴譲。早く參りまつ。至一時政元對面。宣示すア。白川山。灵
虎の事の趣。附ふ。也。及。以。之。飛既。落。外。を。鷹。戸。们。を。而。課。そ。猶。捉。ま。缺。も。他
如。の。浪。せ。の。ら。前。鍊。砲。を。武。藝。胆。勇。の。者。ま。ぶ。れ。傳。授。あ。り。す。功。干。を。主。そ。理。ち。ま
い。き。が。今。命。ま。よ。ひ。の。義。を。以。そ。各。鍊。砲。を。授。れ。す。列。年。五。十。若。て。從。へ。そ。俱。よ。那。山。ボ。獵。狩。て
も。と。う。そ。ん。ど。か。ひ。功。す。れ。先。度。の。耶。を。雪。す。足。り。ぬ。一。と。見。て。驚。く。但。而。非。獵。者。們。へ。體。す。目。と。目。と。往。し。
答。難。よ。ろ。ひ。や。よ。直。賢。と。經。緯。權。且。と。得。よ。レ。テ。酒。設。奉。レ。事。那。虎。ハ。直。賢。物。
内。外。故。と。画。圖。の。化。よ。う。ふ。力。す。も。征。一。さ。か。鄙。語。云。餅。ハ。餅。師。ス。く。山。獵。を。す
ま。高。い。よ。生活。よ。と。き。鷹。戸。を。林。裏。を。ま。さ。下。さ。る。下。さ。る。所。を。此。を。守。マ。ニ。鍊。砲。を。す
そ。そ。く。又。た。を。だ。人。を。い。ハ。鷹。戸。们。を。立。勝。く。能。を。も。鬼。火。と。讓。を。止。告。進。院。

とくに真寶經律もこの議を無く其俗の河原の勧化を讀へて改元に當る
うどまく本草をかみの趣方及理互反する處已と云ひ甚議と驚て余が且若
ハ讀書にて風良きを安堵する否と久良慶は敵爾中大鬼平五郎は大兵各卒
名を謀連て河原を勤役の頭人として正直は大兵ハ有司議定一ノ日受金會日
勅より命されば是日是日真寶經律を讀書其俗を以て是日往而立七時三度
あらじ。京師の美威守堵ど虎の在る山を背かし河原を護る何事で河太郎を虎と
ハ六虎也亦木下橋ひ者とや里の鳥跡にて京室の辯れられ復是事の要詳參
れ。虎の事はもとより虎の事と云ふと思ひの如く耶頭人もて召返されさへかく更に亦徳用と熙則也。
用室に於て虎の轍本と解示すと御ゆき。和同のヨリカヘ人多知り今亦虎
加多。師弟の法力を不れれば是大功也。那靈虎と對治して先度の取事と雪
哉。かくして徳用流吟もく其義が仰かざも望む所はへまかね原内身の詔書
とて。かくして徳用流吟もく其義が仰かざも望む所はへまかね原内身の詔書

とて。かくして徳用流吟もく其義が仰かざも望む所はへまかね原内身の詔書
らゆべ我六十斤の銚杖も拂は其甲斐ありて其心を約莫傳。變化の人力を以て征せり。
有驗法力にして僧尼僧ニ調伏の修法を仕し。一セ日引ト小驗をぐ二セ日
大驗見代三セ日少く。那虎自然と滅食す。上下安堵の事。御へん何の御疑ひなし。
ひう覗キ説教。其言も亦理也。似て政元本性修法と似たる也。黙頭。則
其義。す。併し。館の内。乾淨。及。謹嚴。壇を飾ら。又。徳用堅前。禪修の致
も。冬。雪。中。御。御。ひ。そ。也。北。自。河。の。山。里。の。村。長。城。元。門。に。本。修。教。院。の。即。ニ。御。主。那。虎。に
生。だ。宿。中。御。御。ひ。そ。也。北。自。河。の。山。里。の。村。長。城。元。門。に。本。修。教。院。の。即。ニ。御。主。那。虎。に
里。人。種。い。盡。及。べ。ひ。そ。と。悲。告。く。請。ふ。と。兩。三。書。二。及。八。程。三。東。山。巖。も。室。町。廢。も。改。名。
令。も。猶。山。中。積。が。時。え。な。が。里。人。都。て。生。活。を。便。と。食。渴。交。す。ま。す。霽。治。遼。際。也。
出。往。を。每。と。那。虎。の。こ。と。う。が。の。と。と。計。お。運。隣。せ。那。虎。の。心。も。自。古。不。知。り。
知。の。虎。の。公。政。元。一。向。を。答。ふ。由。テ。尺。亦。回。一。退。の。べ。東。か。黑。猿。の。推。算。を。思。考。

色も見れと政元倒る訴つて。又親兵衛我兵和扇を復るの故に。萬比う。故番とぞ。
名刀家。花姫。衣袴夜衣。金銀調度の類。せふ。稀きと。與へ。玉座も。玉堂也。乳色也。
其物毎。圓等。れよ。那馬。さゆ。愛悦びて。受へ。甚る喜び也。と詰。が親兵衛然。
其脚錆ひハ理り。在下。東籬。一時。先老侯。顯身。青海波。名馬。
雨开。千里の駆足。を。喜む。馬と相称す。且。日月。而波。走慨。妙對。萬物。奇
乎。御。名捕。宜。之。在下。這。上京。浪速。浦。木路。ま。丸。
日。海渡。と。年。や。思ひ。千里的。駿馬。を。駆。喜び。別。身。あ。今。す。
兎。身。暇。駆。安房。へ。墨。折。え。この。走。足。走。千里。の。轍。る。一日。
稻村。城。到。と思。へ。舞。ひ。す。愛。奉。り。自。餘。貨。あ。う。う。黒。裏。壁。
う。ひと。そ。政。主。を。笑。ト。今。市。特。く。思。い。却。已。底。至。あ。され。然。氣。う。面。色。天。
晴。走。信。傳。の。東西所。要。ト。ち。泰。觀。赤。本。意。稱。珍。重。て。藏。て。又。説。有。需。ヨ。布。

卷之三

内ニ崩さん其機動もとて之を御流の流すもと水の流れ大の事と異ひざ
り。善政の事ハ國と虎を提げて今日不れぞ行へ今日の行は遅る。此
賢相ハ只那虎對治一意と三事の内に開も做さる。事と之を改め。之を
き便直ちと向ふ。然今恩意ある論者ハ承虎故事の變化と云ふ。雲
ゆ。不詳。元々。形體も。體形状も陰鬼も。非如人を傷しよとも。陛下の
事も人を傷し。是形體も。體形状も陰鬼も。非如人を傷しよとも。陛下の
物を虎も。骨を折り血を流す。挫けてまきせん。既に形體ある者と成ハリ。前鐵砲
槍、馬の槍も。槍にかと盡きぬ。欲す。耳鳴り。火薬。火薬。亦
有る。虎の體も。只人の目とえり。実に形體ある者と成ハリ。前鐵砲
槍を傷ひ。槍を手す。箭を矢頭を打て。征き能の事と解。政元。海賊も。會
喫。黒頭。寔は全く舞詠。明亮。數日。疑。一時。釋。願。和。扇。我。與。自。川。山。那虎。對治せ。大功成。甲まれて。還。賞。禄。歸。僕。せ。也。邊。か。と。養。

多詞。徳事。から。親兵衛。義。便宣。沙汰。折。在下。淹。留。久。
既に。威脅。の。一介の功。思ひ。那虎對治。銀命。是本來の面目。人
まひう。意。事。因。賞。腰。虎。東の。眼。見。ば。と。政。え。槍。智。勇。精。願。
然。も。か。人の。も。虎。穢。而。之。戒。這。裏。之。釋。是。吉。田。家の。忠。臣。益。世。の。軍。士。不
成。封。外。の。國。郡。社。種。屋。傳。將。軍。家。仕。も。東。西。逐。と。直。美。之。禁。は。親
兵。備。隊。又。よ。す。御。恩。厚。く。之。御。正。業。も。主。と。奮。と。都。下。の。武。士。諸。山。
若。僧。各。道。と。空。く。之。取。と。わ。靈。虎。對。治。の。大。命。玉。程。ひ。ま。て。八。言。面。利。善
焉。有。も。通。功。さ。と。歸。東。の。眼。見。と。思。す。を。恐。れ。と。競。て。大。が。と。商。留。も。敵
も。の。練。自。と。捕。る。と。其。義。御。免。と。せ。か。べ。在。下。軍。被。も。虎。と。那。山。の。木。獵
る。と。も。不。幸。り。虎。と。遇。す。日。と。歷。て。競。て。免。か。と。宿。す。と。山。と。て。那。里。す。や。あ。だ。
又。ま。じ。か。と。虎。と。遇。す。日。と。歷。て。競。て。免。か。と。宿。す。と。山。と。て。那。里。す。や。あ。だ。

く爲に一大事。大智も頗る願ひ。身の悲ひやまを覺ふて書せら。愚衷と憲直丸が
と義と見て勇む英士の意。報とづゆか。政元一雪時。今。財裏より現達後
生れ碑。虎と。那虎と。對の功をも。子の歸東の願ひと。も鏡を。他も
ま。亦我命令を。安て。虎と。獵と。我始より。を用ひ。今。まぐ。而て。送發生
命。歌。贈れ。虎の一義。我上。虎。歸東の鏡。と鏡。七。
成。主。力。否。見。不。如。と。要。主。張。あ。う。雲。頭。す。親。兵。偏。情。願
ひ。あ。み。其。志。誠。と。感。と。あ。わ。那。虎。對。治。の。功。あ。我。洞。軍。家。子。画。上。と。其。身。
暇。と。取。え。い。ら。の。ま。へ。算。織。り。が。疾。山。獵。の。淮。宿。す。か。ま。用。れ。と。要。ま。親。兵。偏。情。願
ひ。勝。我。む。を。宣。ふ。ま。下。悅。達。か。額。宿。と。聲。相。宿。上。す。在。自。今。許。の。御。一。言。別
是。准。軍。家。の。命。部。か。対。多。事。多。の。命。猶。條。願。ひ。か。在。下。賢。相。の。高。福。よ。う。て。那
虎。と。對。治。一。早。と。徑。と。通。は。路。と。起。と。碑。せ。づ。と。守。寫。と。選。ん。隠。風。け。と。本。逢。

卷之三

他之恃願。若不以其功而證据分明則告諭許。巡其關隘而歸東也。莫功
未分明。非見所。穀虎雖云。欲出。關門不敢勿許。進止宜從此旨。文明十
五年十一月日示。奉嶺陵奉蓬陵大津四所。閩守等。左京北院。トモ。あ

は。親兵衛遠書を讀証て卷之標を交換成元の文ひ。知縣那山より不
弓箭鎌砲を提れま。併當殺十名と從せんやと向ふに答へ然人尋ねられ。到
てきてまづ足を貴様うそと事よ益々在下が併當の事務とう相從へ者多のべく客店にて
あらゆるところを告知せ。近に路へ即置げ。信使従者一人を下すよど
てまことに。改元感嘆と。壯士我嘗勇きを左ても右ても無敵の隨意實を進退
せよ。遠即ち我外。騎馬と並んで餓死す。未熟を見ま。歎せば。あら處止
ぬ。那走忻上りし葉と宿所を退す。疾山懶の淮備とせよ。今宵より企て。吾
をとす。爲へれと。身を立てる。親兵衛ハ敢亦再譖。友を。余よが御免を。仰

徒をもと答て歸。退て早く爲城。立虎。空青侍はるがまうゆ。馬車五乘。親兵衛の轡の
支。前輪。よひて威。内ももも乗る。廣場。かく。地兼徐。よ西に。晝。未だ。未復。て。辛と。冬
月。青侍。まよ。案内。て。通じ。騎馬の。れ。尋。よ。額。御。に。坐席。の方。別。て。行。修。然。
外面。被。て。坐。よ。す。達。而。大江。親兵衛。ひ。駒馬。走航。よ。乗。て。宿所。迎。か。ため。程。す。
又。折。直。緑。紀。二。六。を。あ。日。の。大。郡。屋。下。郡。屋。の。毎。す。解。と。も。同。よ。末。改。へ。懷。す。今。這。重。
見。で。又。わ。た。あ。○。お。そ。入。親兵衛。ひ。駒馬。走航。よ。乗。て。宿所。迎。か。ため。程。す。
や。开。里。う。漢。子。せ。の。折。と。我。宿。所。ひ。ま。ま。館。解。と。賣。る。經。紀。保。矢。の。井。井。
紀。二。六。然。シ。往。ゆ。比。所。講。の。末。漫。頭。よ。ま。せ。ん。ハ。可。そ。と。ひ。よ。親。兵。衛。點。頭。そ。
ち。す。ん。脚。を。寄。て。ま。う。あ。ち。も。と。し。く。も。腰。ふ。縛。と。う。朝。と。共。ふ。里。主。斗。と。早。く。被。
そ。と。お。る。う。た。ま。う。と。し。く。も。腰。ふ。縛。と。う。朝。と。共。ふ。里。主。斗。と。早。く。被。
お。と。外。の。大。郡。屋。の。面。背。よ。象。引。の。所。要。を。無。着。て。乾。く。と。下。と。推。置。こ。て。里。主。斗。
收。ゆ。よ。餅。師。が。お。房。う。つ。ま。え。伴。當。们。ひ。保。某。の。町。の。客。店。某。甲。屋。よ。住。み。



中より妙秀代に歸へる。一個の伴若也黒有り。神戻の路より寄りやうと
立てぬ。近見にて正可まことに。遂に起て身を起して馬の
奥邊より近寄て侍の鳥居まで來ゆる。恭り答へう仰奉り候ひ。今日は毎ういと早め
買えと黒にらを。とて程より届けまわす。元あらゆるをされと送の上へ外で手く人の事
目と憚りの間をもぎとて六毛後口と渡て坐マセ。程より轍兵衛の國をとて宿
寺を参り候。不思議僧徳用の徒弟堅刑と共に僧也。白川山を虎伏と讀法の
御宿より日を費して法衣の袖に護摩の煙を拂り師弟の聲を讀經不聞也。八月
羅子役危ぐも毫毛法縫空とされ候。既ち未だれ候。相地より遠侍は立てて青月侍ひと
國坐し。要した難談をたむか程より能大江親兵衛が雪虎寺の箭と重キ。而
もくもく。且走船と名する名馬を照。今宵よすて那身單白川山より起ひ。馬を横て候。主
ひともどり。獨特と嘆へて。御宿より馬を。急に足面をよと退く。お聖刑

賜ふたびをとひまく。口傳す。うの直通兵ニテ。且舊に且急。堪能れ。際会す。
權將。而して。一箇の計策をひきれ。年未辰。腹脹心ト腰。食六七個の筈。と有す
ま。括りせて。臂の風聲と。莫ハ示し。各の是をも。言ハタ。又と。をあそむ。我身。既に即て
那大江親兵八衛の出。甚ニ様姚我。也。里の上。然。他。負。猶我のよ。か。先バ熟念
て。深忽。も。か。只。憎む。は。累紀。之。奪。助。同士。與。さ。ま。代。バ。そ。我
て。瘡。を。脣。ひ。唇。馬。も。を。れ。復。は。遣。限。日。累。紀。は。多。愁。と。那。安。陳。謝。及。び。五。虎。の
貢。子。正。若。真。賢。輕。權。將。と。其。宿。主。星。祭。廟。と。社。廟。の。祭。累。主。數。十。名。の。頭
か。今。も。賀。茂。河。原。の。勤。役。ハ。輕。役。と。ひ。く。少。少。誰。其。器。勝。り。とい。ん。や。又。真。賢。正。賢
玉。至。た。を。燈。塔。等。も。余。を。年。未。時。日。向。上。國。言。人。と。武。藝。の。友。と。義。月。月。我。屏。居。と。訪。ひ。も。玉。を。二
も。が。時。か。観。る。那。勤。役。モ。忙。下。ね。營。事。行。事。ス。か。か。の。そ。く。ら。と。歌。舞。交。と。這。樹。罷。賜。と。鹽。え。と

師弟の義と仗て復讐を爲すと思ふ。那里へ赴ひて流まゝる重車の當面にて見よ。我計兼ねし爲め其折和解を乞ふ。河原の守令はおなづらの謀つて心を復そん。されば何とぞ氣を漏さず。密議。七個の弟子を遣し西を往くのこ處難を开か中は曠屋耳九席千里眼。と無做し。鷦鷯の壯俊あり。卒然と復讐。脚遠足の事の無事をとぞ。一丸が復讐。眼。それ我門不似ふれとも。傳ひて已が頭の鱗次。而も。脚教諭。従ふんや。眞は趣神出鬼没の良策。是れ。自餘五個の弟子も咸に。這体氣を勵ませ。俱は神木と雲う誓を破る。と。詞雄をも慰め。自餘五個の弟子も咸に。這体氣を勵ませ。俱は神木と雲う誓を破る。赤べて示す。が直道斜を教ひて。參む事と爲むべし。西全く十石を全却て耳。九席ちよ遼寧。けり。余者。順風耳。九萬千里眼。八角。七名ハ。北白河。よ。這方ある處の日。あ。赴く。流言を立て。うべ。遠きを早く。實茂。河原を正す。景氣真賢。經略。の守屋。行へ。多參。時の四官所。一朝の事。暮る。風聲耳。ま。所。最怕と大きい。宿主。

人。かく事の如きをもとよりは可談を今朝御。年。虎のト日。則。今日。乍。麻
ヨ。ソ。可。と。又。开。年。種。鳴。正。告。所。矣。カ。ニ。田。利。吾。師。平。と。喰。做。モ
シ。頭。人。ゆ。一。季。時。ノ。事。モ。衆。兵。テ。薦。め。シ。ウ。ハ。ツ。キ。セ。ヒ。ト。毎。日。ニ。通。化。る。災。害。テ。四。

長説譲り時て殺され誰も免れ者有んや然とて此を立キアハ勤役とす用事ある
罪是の亦免れきが所證観音寺の城を起立。六角家より。又降参る。是より外は
未だ。とくに大家有理と悟つて俱は逃走度を做モ程々比睿山下風時々と颶と
音一響響ひ。河原の沙石吹き颶。黑白の引もろい。鞍馬山。故馬齋て虎嘸け。
風音と古語。是より所異。虎毛。毛皮。逃げしと。假面。假面。眉は拂れて皆共傷
追江路を越て。立六年。至。程々助風早く。宿く日。西山。没んと。登立時。鞍
馬真賢の聲。尋ねる。殿兵の小頭人。北蕃洲千里介と。喰。做。兵。あり。猛。舉。兵。と。喰
は。大家の。説。も。多。我。信。之。威。信。連。立。觀音寺の城を起立。と。廢。首。
うえ蛇。一隊。の。長。弓。引。士。あ。有。戰。氣。と。せ。れ。矣。又。空。れ。か。筆。何。せ。る。
空。大。敵。地。よ。え。う。ひ。の。日。屬。我。の。慘。烈。く。罵。使。ひ。る。四。個。の。頭。人。て。誣。て。體。身。を。穿。せ。
然。が。先。向。て。名。早。く。京。へ。来。ひ。す。第。は。訴。宣。示。ん。う。へ。小。寺。が。頭。人。種。る。此。中。太。統。東。寺。

馬海行。敵齋經禪。河原の勤役功を讃故に罪せんが故に陥る。恨れを反て但丁達が
す。情他よ六角高頼は謀一合を。那大軍を引入て。駕く。京師を攻へと早く。討幕へ
御。空手をもく捕捕せのりもへ大事。駕びんと寔。す。京。諒。討隊を向九。也
。門先を抜き。不意よ起り。鎌砲。我頭今。三個も漏さ。擊。果。我大軍。都是。言
名。雅。也。忠。吉の。音。禄と賜。の。も。河原の。行。禪を罷免。而長く。那虎の。處を免れん。
風。の。議。徒。を。や。と。詞。急。迫。く。說。論。大。家。所。の。唱。は。想。モ。开。ハ。亦。奇。妙。計。ハ
。也。矣。今。ハ。甲。也。乙。也。人。を。擇。テ。口。軟。セ。説。く。京。ヘ。連。シ。程。既。ア。日。の。暮。ル。方。討
。也。使。と。既。ア。ト。大。家。其。里。も。引。返。ア。故。の。河。原。モ。道。不。顯。四。月。香。草。介。直。道。ア。
裏。の。腹。の。余。が。第。よ。流。き。の。被。策。を。相。授。け。ア。指。と。方。ニ。走。志。一。暮。日。の。闇。ア。也。
。も。活。可。妻。と。離。別。ア。今。無。二。歲。よ。年。は。獨。守。况。ミ。夫。の。妻。隸。は。遠。離。ア。既。主。身。
覓。期。を。も。那。第。一。也。の。音。耗。と。づ。く。程。約。莫。立。七。時。と。經。て。耳。九。鼻。眼。也。

七個の弟子の情地は白川の方よりまへ直道を轍す御州東の流言既にれり
實茂河原を勤務の士卒より遣す是を知れど日毎河邊を立盡る西隊の兵士
今日ハ皆慙恥悒悒と顔色を聚り相見ひともまう憶のタケルを。他們ハ逐電も行
ひる早く準備を整へて空きせりと並んで直道を駆けて再び今度は奴隸云々と
語り、留守を參候。然て進路の躰飾を身少き兩個の弟よみ集ひ三昧の喚召の宿所
を。俱は實茂河原へ赴けり。尔後は鷹子鷹中太正告紀内鬼平五景記。海告真
賢を敵齋短棹の異名虎防禦の號として河原の勤務を請ひ。一ち各氏の際無事。
日は阿原ニ生立を。僕と轍の日と過ぎ程に有一時勁風沙石を颶て天と鳥くを葉。
皆且一ミ風生テ天を育て後は見れば都て河原ニ立つ。霧共も一人もなし。其の
各久河の弟子西ニ名ある役は從ふ。あはる吟唱。疾形妙幻と匪意。是非とも
や。未よし。左ノ部にて。日暮春夜をかすむがれまく。○ふくよそ。景記有聲

卷之三

久く屏居れ。疎に故故乎似て。す。昨今せよの風。故聲のゆゑ。うなづかれて。安否を
伺ふ。惜地より。あらざること。が景紀。先客も。叶ひ。御深切。獨り。枝石の失と。宣示解んと
思ひ。御寢處の下。在。尺幅黙止。其後又。ある勤役。暖ゆむよへ。陪話。既
王告。眞賢。經禪。共信。よ。詮。を。許。恙。を。相祝。却。今。宵。羅兵。勿。不。震。通。電。傳。と
告。道。通。主。所。研。之。安。と。み。る。鳥。の。子。宵。の。小。卒。の。夢。物。語。耳。生。す。逃。す。も。
那里へ。ひ。え。や。天。明。へ。か。て。未。を。熟。ま。る。心。と。方。一。の。ひ。そ。夢。と。わ。と。六。和。が。て。咱。之。病。癪。あ。一
脣。酒。の。推。薦。す。う。き。び。く。と。向。は。直。禪。の。面。圓。の。第。す。ひ。う。す。其。二。種。を。披。露。と。火。薙。
酒。と。鹽。と。歸。と。共。一。安。排。と。醉。と。心。と。醉。と。歸。と。告。景。紀。と。ば。や。と。眞。賢。の。經。禪。も。素。す
飯。と。便。と。齋。と。食。と。寝。と。覺。と。起。と。拂。と。玉。帝。と。橘。と。俱。と。教。と。舒。と。送。と。前。交。と。真。平。
ひ。て。走。る。を。と。否。も。能。と。蜂。と。う。と。草。と。花。と。蟲。と。蝶。と。慊。と。長。と。旋。と。左。と。回。と。主。客。と
所。せ。ま。る。や。食。れ。草。と。花。と。蟲。曲。と。息。絕。と。嗚。と。あ。あ。白。柏。す。早。歌。の。舌。の。興。各。と



おのとせのまつり



香東大く進
五右衛門兵三

櫻痴

サハのまゝナシタ

て、
正備の五
兵の攻撃に、耳九郎と相入て耳九郎の經緯を只一簞と刺殺。もの勢ひは氣を失ふ。
眼八卒の助剣の正吉と真方と息子も飛ばせ攻めよ。斉との正吉と真方と見ゆ医者たる
も、りて傷と痛傷を負ふ。六個の敵と引合て最も烈く戰ふ程の耳九郎眼を穿て助剣の
箭の穿きにびくれば、腰を負ふ。有様にて程の猶ま逐電とも。敵兵の小頭人三田利
吾師平源洲千重介の記す。敵兵西三毛と京へ告訴。是後正吉以下の頭人らは、
あす脅すをとて車の先景を張觀んと。火計の夥兵の、わまと三十名訴徒で各
銃砲子光と、毫四萬挺火と準備をして酒をよかちまつて正吉の牢屋の前後、内に景を
銀玉正告直ち槍舞。各鮮血を塗れ。五六個の敵と廻戦す。敵も暗むと多く是記の記す
事。外に射撃する者あり。告解本と千重介の遠聞の事情を知りとてひながたからむ。而
て、一時の軍兵と兵士を詰て、傷よ守屋に散りて前後を連撃。二十枚の銃砲と詰の廻戦
まつて、正吉の下二石敵が直道以下六名多大射所を奪ひ洞を立て衆共顛ふ付たり。

五頭を献ぐに衆研奉敗頭乞喪

第百四五回

第百四十五回 脚小至極にて恩師徒を足を踏む
五頭を斬り衆歼奔敗頭を喪ふ

却説蘆洲千童作三面制者師平ハ二十個の夥家を帮助とす頭人並ニ澄月師平を失
場ニ銃砲ヲ繩引キ遠近撃。梢動く折る處。候。軍一百六十八十疋。六七心許各
走て情地よかずまゝわらへ千童作則他們よ高ひ下方僅四個の頭人と豫面善。○る旨
車介師第五十七名と一斷殺。又。藤負。つまど。う。折。我們。あ。まよ。わ。ね。ば。相。す。も
便宜ある。身。脇。び。寄。て。前。後。よ。二。十。枚。の。火。砲。て。更。一。度。木。結果。付。より。と。云。事。
趣。て。告。て。又。は。る。ア。ノ。立。鳥。の。子。達。月。香。車。介。直。道。ハ。何。等。の。故。其。先。子。六。セ。名。と
往。來。四。個。の。東。入。往。鳴。紅。内。裏。馬。を。敵。脅。ち。と。命。禍。事。を。做。出。る。や。情。由。セ。知。り。う
れ。れ。ど。この。い。い。共。信。み。繫。捕。け。れ。妙。手。ど。や。今。這。主。客。の。首。正。死。伏。と。復。
を。失。れ。ど。這。師。第五。共。信。み。繫。捕。け。れ。妙。手。ど。や。今。這。主。客。の。首。正。死。伏。と。復。
館。へ。光。と。ま。事。既。よ。懸。向。寺。如。く。正。事。景。紀。真。賢。經。釋。バ。謀。対。ス。殊。モ。蘆。

月香車介直道の一味の弟子六名にて従ふ。今宵情他子守屋はまゝ但と觀音
寺の城へ走らるを催促するを可無相謀て真幸を鎌砲をもて送り難い捕ひ合ひと想
定するが首尾相稱す。御藏八人を増もへて有司と賃一回れん折りを食せよ。
志るるをとす。大家銳ひ意。とくに設宣は精物。然が先頭人等の首領。権威
のそりべと。情動る。大家の社役五七名内より程々衆。這夥兵刃を起
算。何原を左右へ走る四個の頭人の弟子十名許立見。尋遇。後へ途
あきじて一猪の腰を守屋へかづまよけぬ。身向す夥兵刃の居多く立在を
ぼく見て。腹立つ。同音高く若们舊に那里へゆく。我們既ト仕事
を知るや鳥鷹の白徒奴。と相罵り。近着程々千里作五郎平亮も雪を
早く丈家の兵。毎日裏見たる所。引堤。鎌砲拿も直ち肩鎗等。二十
十挺。一度コ檣と鎗で發せば又敵へい第。手防ぐ暇のぞて果敢々都

僕

卷之三

頭噴做七兵

即後保志士幸四五百名と領て馬で走りまわる。憶を逢うと射皆生
まうちへ。あひて。のと多く。りりび。ロモリ。とくわ。のうゑくと。
うれ則千童作吾師平が事急と。と。詳吉。四個の頭人と通じ道中の首。西を実
徳。よ。金。ア。名。奥。名。五。郎。殺。ひ。底。と。有。徳。ハ。三。田。利。吾。即。第。其。隊。六。海。相。徳。ユ。早。く
うえ。あ。ゆ。の。う。う。西。陣。ヘ。參。う。往。う。う。裏。捕。き。ら。逆。徒。立。名。の。首。吸。を。御。覽。ミ。氣。ヘ。よ。又。藻。洲
う。へ。ま。ら。つ。先。つ。こと。兵。主。行。く。守。將。の。鳥。河。原。へ。囲。取。ぬ。逆。徒。伏。誅。
幸。れ。ど。む。被。普。寺。の。敵。心。許。タ。我。河。原。へ。起。た。と。猶。非。敵。や。と。奪。ま。ん。あ。敵。と。ゆ。ふ。と
宣。示。累。大。家。異。義。自。き。き。業。ノ。ク。吾。師。平。ハ。直。保。震。百。卒。十。七。共。代。射。符。首。堅
た。ま。つ。う。う。別。れ。そ。西。陣。の。即。へ。起。て。程。み。千。童。作。ハ。又。真。隊。器。兵。十。箇。と。伴。入。て。真。名。五。郎
う。を。従。ひ。リ。但。而。秀。鳥。真。名。五。郎。後。條。ハ。文。修。士。卒。二。程。て。上。て。路。次。を
い。よ。ん。駆。く。駕。く。賀。度。河。原。る。程。子。嶋。中。本。正。吉。の。守。屋。よ。奉。先。と。従。十。二。
駕。尾。嚴。を。引。起。を。檢。ま。る。身。も。白。鎧。傷。の。こ。か。と。各。相。戰。く。う。

先とあがた刀槍那身を三度も重は是尙取説だ。主邊事人する直臣助の事の
内中一個の北伐でよし義を。餘僅息子と。良名五郎。陸郎。一五郎。下田太郎。今村
加。准備是れと。居りて又外面を駆れる。正告真賀。經津景紀の。
武藝技能。手毎の毛體を極まる。皆鎧傷あれど一人股を盡らひ。是
處所をねらひ。折子我と復びて車の仔細を訴る。便りに即ち當時夏令房が這
傷瘡患と。牢屋で。被入れさせて。是れ難事也。お供と。俱う勦り。歸ら。ト。往く其
美帽を折尋ね。牢屋を出ゆ。番車介直道へ。鎧法の第。品模。赤
四郎と。喰做者へ。則此。招了か。直道。景紀。役石の遠恨ある。遂に流
せ。計の算計。行ひ。既す。の便宜。と。今宵。腹。八弟子。順風耳丸。序
千里眼。芭蕉。亦。當。や。近里。そ謀く。景紀。寺鬼。短程。夜を。見。之。又
正告。百丈。警。坐と。大然。突戦。邊。物。誰とも知らず前後うち連發。而。鎧

砲。敵。身方。自。繫。されて。其。信。倒。化。あ。獲。の。事。と。知。ま。又。外。面。を。奪。
傷瘡。現。ハ。程。子。鳴。正。某。鎧。砲。不。予。何。原。の。勤。役。不。從。事。于。下。汎。キ。甲
是。人。之。社。侯。の。口。狀。あ。て。鎧。兵。竹。か。處。の。よ。來。ると。云。風。聲。よ。耳。怕。女。猶。如。不。風。震。
起。一。時。皆。愚。逐。而。去。又。仇。忌。郎。門。師。命。よ。左。右。別。他。い。を。新。ひ。是。見。是。
及。す。れ。が。日。暮。更。て。か。て。未。ぬ。折。反。て。鎧。兵。竹。か。在。周。上。給。れ。そ。或。十。枚。鎧。砲。
連。參。第。仇。忌。郎。御。達。力。轉。付。一。け。事。の。頭。末。並。正。告。景。紀。真。賀。經。津。景。紀。の。事。
至。先。通。心。負。う。知。れ。一。向。左。五。郎。寒。嘆。て。原。來。千。重。作。吾。師。平。を。ふ。猿。黒。る。
其。脅。病。あ。て。逃。罪。と。曉。爲。と。頗。人。を。誣。る。謀。殺。と。許。て。更。て。赤。便。宣。し。ま。す。
是。と。擊。殺。て。併。て。其。身。の。忠。義。と。モ。罪。痕。迹。不。異。身。も。一。個。の。漏。さ。捕。押。し。と。慶。
知。每。下。知。る。程。又。半。重。作。吾。師。平。が。名。と。號。を。號。を。驚。驚。と。共。保。不。逃。た。
ま。ほ。そ。詳。見。鳥。の。子。卒。二。言。名。連。參。大。推。捕。生。不。歐。御。考。數。珠。繫。九。漏。古。九。童。

題
目
三
賢
と
か

心あわてぬ出家入道。一個の七曜城。舊音の在守。佛と世を経う一個の
日毎の路傍の生と佛禮と。學子不一經一錢の施。其の半生を送り。其の半
命比五山の一僧の行向。大蟲已趨。何留大狹猛獸在山。可笑。丘。雖水。
ま。守政。河性。北辰。喧。泰虎。不空。人人及相吾。又政入那千周應。方無
功。落月。一時。五虎。下。一句。三國志演義。秀句。柳。勝。勸。廣當。是
師。五虎。藝。五虎。攝。元。秋。係。廣當。第一。今。廣當。是。年。虎。と。之。多
素。是。溫順。君。五。勝。仇。僧。人。同。破。機。變。破。廣。當。田。地。引
虎。造。化。鳥。月。鬼。年。景。死。主。時。人。舊。固。猶。是。年。虎。と。之。多
益。廣。當。智。五。勝。仇。僧。人。同。破。機。變。破。廣。當。田。地。引
虎。造。化。鳥。月。鬼。年。景。死。主。時。人。舊。固。猶。是。年。虎。と。之。多
大。江。鐵。六。衛。虎。獨。與。中。白。川。山。起。當。日。段。毛。復。七。見。二。同。話。休。題。

余程より思僧。徳用は既に聖朝の機密を授け。他に出一遣たる。嘗て便宣を覗す。
稍ちの手。又。時。候。館。中。華。カ。而。反。動。の。近。習。青。侍。睡。ら。者。皆。見。か。れ。
静。悄。す。辰。正。雅。の。臥。鳥。不。兩。個。の。安。康。宿。直。そ。徳。用。れ。見。ひ。く。是。
間。ち。悄。き。其。里。よ。ひ。ゆ。の。ま。う。も。確。立。と。兩。個。の。夕。匂。く。す。ふ。聲。
昔。ア。レ。の。徳。用。え。ハ。幾。い。一。個。の。夕。匂。立。と。見。ひ。く。是。
元。と。徳。用。の。小。脇。な。方。ま。身。を。清。ま。つ。東。ア。過。一。而。ま。で。樹。る。皆。う。迄。の。理。で。机。
元。と。徳。用。の。小。脇。な。方。ま。身。を。清。ま。つ。東。ア。過。一。而。ま。で。樹。る。皆。う。迄。の。理。で。机。
候。候。又。一。個。の。夕。匂。立。と。見。ひ。く。是。また。亦。外。外。宵。勧。人。見。れ。ふ。美。氣。雪。味。雅。限。身。邊。と。入。れ。雪。味。雅。勧。見。て。聲。と。立。と。去。
是。を。徳。用。通。ま。お。机。と。見。ひ。く。是。早。而。備。の。布。臺。業。セ。衛。セ。居。極。而。廢。業。機。と。次。
解。由。て。見。ひ。く。衛。セ。殿。の。宿。宿。平。食。不。暮。用。ひ。る。般。若。機。尚。僅。累。ね。

早く賀茂河の大橋をうち渡り、吉原の茂林の邊を過ぎ、西行法師が蓮開の
柳陰の下に坐す。雲霧時々す、悲しみを嘆く。柳陰の下に坐す。柳陰の下に坐す。
宿の首尾せ告す。徳用か云々。次假て這般若體より悟るも、竊かうと説
説。小堅剛り、口を詰め、咽を詰め、胸を詰め、腰を詰め、河原の水を座へ、那四個の頭人を詰め、
大江奴を詰め、押さへ死師の意詰めて仰ぐ。皆殺さばく、異議あるも、寂靜の間、試験する
折親年僧を擊果て思ひ。欲條廣當が同憲でぞ、悲苦の代試と奉て敢許
去る。か言ひまじ方憎りよ和尙、計較、やうや哉。我們の實無を二百二十。和尙師
父の實力。今宵白川山は曉ふ。上虎害を遇ひ。大江奴を雲裏えど、疑ひ不覺る
から。おとづれ。よし。ひとづれ。おとづれ。おとづれ。
那奴と若果見て、虎害と傳され。人種並て那奴と虎のせりふ。と思ふ。若果見
期て、傷つける。三日後、御内、生靈齋。皆共侶より合ひ来て、今宵百人廟て以だ
江を撃す。捕えん。智僧りあを。師父は、餘る。か山源。玉木ちゆへと固く約束され。

と告げ。徳用黙頭。然ばれ走一走。守屋へゆく。那人乞ひ立む。故て車と
壁前あらわす。河原へ赴ひ。先に。既に。そなたまつる。而徳用。告す。口。即
里へ赴き。守屋の先景を覗ひ。即頭人等が罪を承す。既に。山路。今よん人見
危。鞍馬をうとど。千重作吾師。年。徳用人们的首級を齎して。伏家の兵船共宿。
西陣へと。其折角。を。死す。壁前も徳用も。是より異変を。かね。ちある。
是と疑ひ。原来。竹の頭人。竹の主も。我を。ち。り。在。赶限。と。つ。が。壁前。驚き。と
之。是。かく。鞍馬。太索。と。鞍馬山。路の。小。令。下。引。根。と。却。徳用。と。西。肩。は。
之を。拾。般若經。を。昇。ほ。走。去。向。の。吉。山。寺。を。知。ふ。白川の。山。路。通。す。吾。程。
空。モ。と。主。を。あ。約莫。十。田。許。う。ア。ヒ。夜。路。の。筋。一。座。の。小。室。あり。當。下。徳用。聲。を。被。る。
之を。ま。る。ま。る。ゆ。タ。シ。モ。い。堅。前。む。ね。懸。ス。守。荷。と。墨。リ。ヒ。峻。嶺。セ。春。リ。ハ。脚。一。被。宣。レ。ト。要。緊。の。お。リ
タ。十六。分。の。筋。を。さ。せ。や。と。ゆ。壁。前。歩。と。住。め。宣。足。無。之。這。難。と。お。意。主。内。ト。

指す。かひと めぐらむ ひま え。のうちつ
指す。那人々と共に宿泊を複数回。其後よりてかひと あはせ。のちも。但す
小室の夜寝。屏居で仰向く。掛かる匾額にてお睡ね。青面堂の大字壁。旅
包れ。また。破砕を漏る月の光を初よ。わがそば。堅削。呵々とうら笑ひ。原来ゑの
本草ハ。主面白人。堅削。申處。於庚申年。醫物を預け。怪よ。か。金龜此羅す。
ゆ。ゆ。を。徳用。推算め。夜ハ。今。五。二。を。あ。些微。御前。其御の準備。せう
宿。同。堅削。有。有。有。咱等。勿。歸。同。宿中。先。寢。せ。在。後。よ。丁。公。極。齊。す。効。量。を。解
下す。ま。廻。り。一。圓。の。割。龍。を。含。且。徳用。左。右。自。由。と。含。を。戒。へ。も。鬼。病。後。小娘。
躊躇。櫈。よ。う。金。龜。られ。思。苦。よ。想。を。あ。も。よ。權。且。這。里。へ。持。ゆ。と。割。量。を。籌。り
慰。ん。と。坐。堅削。と。笑。ひ。師丈の。櫈。を。差。演。き。手。を。ま。義。流。の。手。を。あ。も。時。を。移
き。移。る。蘇。め。と。相。一。相。す。又。櫈。の。腰。を。置。の。背。か。と。ひ。身。も。こ。こ。お。も。櫈。を。移。る。太。筋。を。早。く。解。結。て。表。と。同。す。徳用。ハ。而。ま。始。能。業。能。業。ま。よ。推



家下は候。則代四事より對面を完。今日親兵備より舟かられる言達をと告げ。親兵備より
御所の執事三司。終て遠與を以て代官郎の歎へ受そ。隨即紀二六と奉旨候。侍郎
用に見よ。背面を示す。細書のり。みまことの黒谷か。會事。左京の需生。右
山の山。山の靈廟。廟を。薬治の爲よ。曉。昏。那里より。走。木。猶。モ。之。奉。奉。耶。蘇
丹。鳥の頭。白。馬。首。の。壁。店。竹。茂。還。寛。時。到。と。參。向。幸。那。神。の。貢。助。よ。
た。事。ア。ハ。既。不。京。御。又。御。手。て。徑。ヨ。坂。本。小。見。す。而。此。地。處。三。多。室。ヘ。カ。ヘ。一。大。ト。モ。要。私。御。其。
山。貌。秀。徒。ひ。る。裏。ユ。經。一。六。メ。預。サ。モ。管。領。家。の。木。牌。モ。之。俱。而。辛。峰。の。庚。モ。過。又。坂。
本。シ。モ。シ。ア。過。ス。風。の。邪。方。モ。我。ニ。待。乃。城。尚。不。考。カ。虎。モ。過。モ。墨。日。竟。モ。有。キ。テ。

之。是日、朝鮮の使を遣す。其使は、
東齊が銅を推進し、自燃の儀をもつて、
銅を馬とす。反て其里の命をもつて、
その時、彼の直塚と、羅兵伴若田共六作、
疾翁村へ歸り、其上に號す。或は、
と曰ふ。館の上より便り、是を心に義をもつて、
其意を達する。恣と見え、勿々不備よ、示されば、代に罷。

鎧櫃は是隨身の武具あれども、鎧ハ山路の小徑にて、預けられ
や。又鎧櫃ハ其收容一名を留めて、駕せし駕車及兵士等とて、時、宿す
可え候。とひそ紀二六書、講うひて商量早く果てし代四郎の處へ、軍兵伴當外を皆召
來、方煙親兵備備が紀二六をもつてひむこと事の類、首程様々と真事と告ぐ。有
集い、騎兵五名へその曉れよと喧嘩を得て、白川山に赴き、度限へて、箭を以て
之をもりしも、えりま、口と、まもう。つとあくよ、のさと、ゑと、ま
ス。よ當田の七八名は、今その邸店を立たず、夜逃げて、坂本の廻の那方を留
めまちぬるの歸の車を徳さんと木屋の鎧櫃のる。及、辛崎坂本の廻と過る。
折那里の廻合が賀へ同り。道様をよろべよと、詳説、祥芳管黒奴謙無
異議。さる處でやうる難く共侶かひやう。我們ハ下司丸も取合を惜むゆゑを遠莫
山の伴立ても、要するに思ひ多くが開か左手を付さん。と、之れの軍兵が鎧櫃の故より其
人を豫めん。うち我們代へてゆく。とひそ代四郎が鎧櫃を却て當分の監理を全ひて以

天保九代成主

夏六月十七日稿畢

著作堂手集

筆

福 琥 璏

大吉

利

市